同窓会報

2012年(平成24年)
3月発行
埼玉県立所沢高等学校
同窓会
所沢市久米1234
☎04(2922)2185

いま同窓会館「希望の鐘」は？

同窓会会長　当麻　実

同窓生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。みなさんの寄付・積立金のみで平成十九年秋に完成した同窓会館「希望の鐘」は、いまどう使われているのでしょうか。

東日本大震災が起きた三月十一日の晩。この日、私は所沢高校定時制の卒業式に出席していました。巨大地震で電車もストップしたままです。午後六時からの式典は地震の関係で七時からとなりました。こんな日に卒業生は出席できるのだろうか？

式典会場に着くと、卒業生そして家族も静かに座っています。卒業式は始まりましたが、余震が続いています。式典のさなか、携帯メールに「緊急地震速報」が鳴り響きます。遅れてくる人、どうしても参加できない卒業生もいました。

校長先生のお話では、電車の運休で、帰宅できない全日制の生徒は、同窓会館でまだ数十人待機しているといいます。まだまだ寒い季節。暖房の効いた同窓会館は、帰宅困難者の一時避難の場となりました。

三階建ての同窓会館は、同窓会室、会議室、合宿所、浴室、更衣室など立派な設備があります。また、会館の外壁には、「世界で活躍する人材育成事業―フランス、ニュージーランド、中国・東アジアとの交流」などの垂れ幕が掲げられています。

事務局のお話によると、ふだんの同窓会館「希望の鐘」は、朝七時三十分から補習授業、放課後の自習室として活用されています。また海外交流のレセプション会場としても使われたそうです。野球部、サッカー部、バスケット部、バレー部などの合宿所としても利用されています。

同窓会館が完成したとき、私は「同窓生のみなさん、母校でのたまり場ができました。また、在校生にはいたれりつくせりの合宿所もあります。これをどんどん活用してたくさんの思い出をつくって欲しいですね」と呼びかけたことがあります。

今年、所沢高校は創立一一四年目を迎えます。私はときどき母校を訪ねますが、所沢高校のシンボル「伸びゆく青年像」（左手に書物を持ち、右手に月桂樹を抱いている）は、青春時代を思い出させます。

在校生に毎日利用されている同窓会館「希望の鐘」ですが、同窓生のみなさんにも、どんどん活用していただきたいと期待しています。

この一年に思う

校　長　中田貞夫

平成二三年四月に、丸山豊美先生の後任として着任して以来、この原稿を書く時期を迎えている。月日の経つのは早いものである。

この一年は、東日本大震災の余燼のなかで始まりましたが、大震災とその影響ばかりでなく、我が国を取り巻く諸情勢から今後の国の在り方を問う激動の時代の始まりでもあったように思われる。

大震災では、多数の尊い生命が奪われ、今なお生活基盤や経済基盤を失われ、復興に長期間を有する事態となっている。生命の尊重は言うに及ばず、人と人との絆が改めて意識されるようになった。経済優先の効率主義や科学万能の考え方に一抹の不安を感じ、我々のライフスタイルそのものや考え方の見直しが求められている。

国内外の情勢では、歴史的な円高状況に伴う輸出不振と企業の海外進出や産業の空洞化、ヨーロッパの財政危機から世界恐慌への進行に対する懸念、TPP参加問題に係る国内諸問題や規制緩和への不安、中東やアラブ諸国の民主化を促したといわれるインターネットの影響、人口減少に転じたなかでの税や社会保障への対応と財政再建など時代や社会を形容する語句としての国際化、高度情報化、少子高齢化などの状況を実感した年でもあった。

本校を巣立つ皆さんに期待したい。若者の未来は、困難を伴うものであろうが前途洋々である。本校建学の精神は、「世界で活躍できる人材の育成」であり、この精神は、現在も本校の目指す学校像に受け継がれている。そして「伸びゆく青年像」は、逞しい肉体に強靭な精神を秘め、質素に、常に知を探求することと理想を求め続ける姿勢を象徴している。

「大きな夢と高い志を抱き、世界で活躍できる人材」を目指し成長されることを願うばかりである。

＝目　次＝

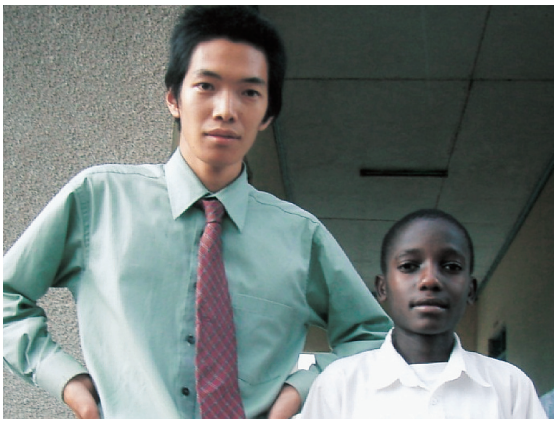
(1) 同窓会長・校長あいさつ
(2) OB紹介　高橋　太一氏
(3) OB紹介　倉持佳代子氏
(4) クラス会を開きました
(5) 野球部、サッカー部OB会報告
(6) 体育祭、校内施設の改修について
(7) 在校生の活躍
(8) 卒業します　どうぞよろしく
(9) 在校生　部活動の記録
(10) 二〇一〇年度入試結果
(11) 役員名簿、決算・予算報告
(12) 事務局から

OB紹介

活躍する卒業生

今回は卒業10年という節目を迎えた方、お二人に在学中の思い出や現在の仕事などについて寄稿していただきました。

高橋　太一さん
（平成14年卒業）
青年海外協力隊員　在タンザニア



6月にタンザニアの中学生イノセント君（写真右）を引率して、所沢高校訪問。当日は体育祭結団式の日でした。

◆現在の仕事と、そこへ至る経緯と近況

ＪＩＣＡ国際協力機構の青年海外協力隊としてタンザニアの中学校で理数科教師として活動中。（２０１２年３月まで）

元々、マンガなどの影響から日本とは違う文化に触れることが好きで、いずれは世界を旅して回りたいと考えており、前にいた職場が自分と合わなかったこともあり、転職を考えていた時に、全く違う環境下で仕事ができるという青年海外協力隊という存在を知り、応募。

タンザニアでは理数系の教師が不足しており、学年によっては1年以上数学の授業を受けることができないケースがあり、私が担当している学校もそのケースに該当しています。その学年を先月より、私が担当することになったのですが、この生徒たちは今まで数学の授業を受けていない為に、分数の四則演算程度の問題すらできない状態なのに、等比数列の総和、円の性質、三角関数を用いた上での球の性質をきわめて短い期間で教えなければならないということに頭を悩ましています。

◆所高時代の思い出・現在思い起こすこと

高校時代は、休み時間に仲間同士でカードゲームやったり、当時、少し話題になった獅子座流星群を深夜、友人の家で観測しようとしたりしていました、観測できませんでしたが。それと近くの航空公園で体育祭の応援の振り付けを練習した記憶もあります。あとは、卒業式を行うかどうかで、騒ぎになっていた真っ最中の時代で、学生ながら自由とは何かについて考えたことがあったのを覚えています。

◆先日所高に戻ってきた時（平成23年6月）のこと・現役所高生に思うこと

1日だけの訪問でしたが基本的には自分たちの学生時代の頃と変わらず、生徒たちは学校行事などにおいて、真剣に楽しみながら学校生活を送っているんだなと感じました。その為、現役の所高生に会って、家に帰った後、忘れかけていた自分の高校時代のクラスメート達を思い出すことができました。

あの見学の後、イノセントに感想を聞いたところ、日本の学校は勉強以外にいろいろな活動があるということ、そしてそれも勉強と同じように大切なものとして、行っているということがわかったとのことでした。また、それに対して良い印象を持っており、そのような教育の方が豊かな人間性を養えるものだという、驚くような意見が本人の口から出ました。

ただ、正直な所、今回の経験が、これから先のイノセントのためになるかどうかは不安があります。教員、施設の不足等による教育の質の差は、生徒の責任ではありません。タンザニアへの帰国後は、今回の見学の経験をいかし、その上で学校の質を良くするには何を始めたらよいのかということを話し合いたいと思います。

◆自分と同じ所沢高校の卒業生へ

先日は本当に10年ぶりの所沢高校の訪問になり、グラウンドの雰囲気、校舎から体育館への通路等を見て、懐かしさとそれを頭の中から思い出すという、自分にとってとても楽しい経験となりました。そして、結果として今の自分が良いか悪いかはわかりませんが、確実に所沢高校での生活、友人環境が今の自分を作り上げているんだなと実感しています。皆さんはどうでしょうか？

高橋　太一さん略歴

所沢市立向陽中学校出身。
高校時代は漫画アニメ研究部
所属　東洋大学及び大学院。
地方銀行勤務のち青年海外協力隊としてタンザニアで数学の教師として活動。

倉持　佳代子さん

（平成14年卒業）

京都国際マンガミュージアム勤務

◆所沢高校の進学動機

私の進学動機は実に不純。「家から近い」「私服でおしゃれできるから」という理由でした。しかし、意気揚々とおしゃれしたのも最初のほうだけ。「家から近い」というのもあって、学校ジャージで平然と登校するようになるのだから、我ながらいい加減なものです。所高の自由な校風は、自分の性格に合っていたので、楽しい高校生活でした。

◆高校生活について

思い出深いのは部活です。「ダンス同好会」の新入生歓迎ライブで見た先輩らのパフォーマンスは衝撃でした。次の日、私はすぐ入部しました。私の代の新入部員は満員御礼。同好会は、たちまち部に昇格しました。今はどうかわかりませんが、当時のダンス部の練習場所は、放課後の教室の狭いスペースしかなかったので、寿司詰め状態でした。

さて、ダンス部に入部した私。華やかな高校生活のスタートを切ったかのように見えますが、悲しい哉、私にはダンスの素質が一切ありませんでした。簡単な振り付けでも、覚えるのに人一倍時間がかかったので

文化祭の後夜祭の巨大画と実行委員会メンバー

す。ライブが近づけば、みんな真剣そのもの。時には、自分のふがいなさに涙した日も…。それでも3年間続けられたのは、一緒に練習した友人との時間が、かけがえのないものだったからです。また、ライブが終わった後の達成感も快感！人を楽しませることが、こんなに素敵なことだと知ったのは、この時だったと思います。

◆進路を決めた理由

昔から絵を描くことが好きだったので、2年生位から漠然と美術大学に進もうと思っていました。その思いを押してくれたのは、文化祭の後夜祭で設置した舞台の巨大な画です。私が原案を出し、みんなで苦労しながら描きました。後夜祭当日、初めて画を発表した時は、「おぉ！」という歓声があがりました。あの瞬間は忘れられません。その時、美大へ行きたい気持ちが、確信に変わりました。

卒業後は、武蔵野美術大学芸術文化学科に進学しました。そこは絵を描くことを専門的に学ぶのではなく、アートと社会の架け橋となる学芸員やアートディレクターなどを育成する学科でした。絵を描くのは好きだけど画家やデザイナーになりたいかと問われれば、「何か違う」という気持ちもあったので、ぴったりだったと思います。自分の関心が、「マンガ」や「絵本」にあることも、はっきりしてきました。

また、ゼミでは、「表象文化論」という分野を学びました。簡単にいえば、イメージから時代や思想などを読み解く学問のことです。そうした見地から、マンガを研究してみたいと考え、今に至りました。

◆現在の仕事について

大学卒業後は、趣味としてマンガ研究を続けましたが、京都国際マンガミュージアムで募集があると知り即応募。研究員に採用されました。主に展覧会、イベントの企画などを担当しています。これらに携わり思うのは、研究とエンタテイメントのバランスが、非常に難しく重要だということです。

当館は、研究施設ですので、来館者へマンガにおける新たな知見を提供する使命があります。しかし、「マンガなのに、堅苦しいこと言うなよ」と思いますよね？つまり、いかに楽しませながら、研究成果を見せるかが、大切です。

そうした点で、所高時代の経験は非常に役立っています。

倉持佳代子さん略歴

昭和58年生まれ。平成14年所沢高校卒業。平成20年より、京都国際マンガミュージアムに勤務。これまで担当した展示に、「ぜんぶ！やなせたかし！展」、「池田理代子　ベルサイユのばら原画展」など。朝日新聞夕刊に掲載「みんなのマンガ学」でコラムを連載中。

京都国際マンガミュージアム展示にて

クラス会を開催しました！

昭和44年卒業

麻生　雄路

昭和四十四年卒三年七組の私たちは、還暦という大きな節目が過ぎたので、恩師の河井先生を囲んで七月九日に所沢市内でクラス会を開催しました。

クラス会の開催に先立ち、クラスメイト個々に通知しなければなりませんが、卒業後四十二年間も経過しているため、住所の確認に苦労いたしました。しかし、幸いにも所高の同窓会担当の先生のご協力を得て、住所の把握が進み、お蔭様で大半のクラスメイトに通知することができました。紙上をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

クラス会当日は、梅雨明け宣言が出た直後で、蒸し暑いさなかではありましたが、先生をはじめ十二名の参加を得られました。

私たちの世代は、「シラケ世代」とも言われ、卒業アルバムを作らなかったため、四十二年振りの再会では、なかなか顔を思い出せない場面もありました。このブランクを埋めるべく自己紹介を経ると、すっかり高校時代に戻り、積もる話に花が咲きました。

先生のご趣味は絵画ですが、作品数十点を廻田のご自宅から持参され、クラスメイト全員で先生の力作を鑑賞させていただきました。水彩あり、油絵あり、また自画像、静物画、風景画と作品も多岐に渡り、年毎に変わっていく画風と力感に先生らしいエネルギーを感じ、私たちクラスメイトは励まされました。

クラス会も無事終えた今、先生からお手紙をいただきました。その中の「たった一つの小さな共通点が、大きな共通点であったのかも知れない。」との言葉が印象に残りました。

次回のクラス会は、女性幹事が加わった三人で準備し、三年後の開催を目標に、より充実したクラス会にしたいと思います。

クラス会を開催しました！

昭和53年卒業

山﨑(旧姓　福田)寿子

四月二十九日、昭和の日。陽光麗らかな春の日に、昭和五十二年度三年五組のクラス会を開きました。

この会は、当時担任だった真田先生が三月末で定年退職されたお祝いで、名付けて「さなだ虫の会」と言います。二十二名の旧友たちが集まり、先生の第二の人生の門出をお祝いしました。先生が教員人生の一番最初に送り出した卒業生！それが私達三年五組です。できれば思い出が詰まった所高でお祝いをしたいという私達の願いを担当の森元先生や関係の方々がお聞き届け下さり、同窓会館「希望の鐘」を使わせて頂くことができました。

卒業写真と同じ立ち位置での集合写真や校歌斉唱。各自の近況報告や今だから話せるマル秘の真実など。気持ちだけ十八歳に戻った私達は楽しく優しいひとときを過ごしました。

夕方からは場所を居酒屋に移して二次会。ここには、クラスに関係なく先生にお祝いを言いたい仲間達四十三名が駆けつけてくれました。

青春時代の一時期を共に過ごした仲間との再会は、少し疲れ気味の私達に元気を与えてくれた気がします。

震災後間もない時期であり、開催について直前まで迷いましたが、思い切って決断して良かったと思います。

ご協力頂いた所沢高校の先生方、ご参加下さった同級生の皆さん、本当にありがとうございました。所高の卒業生であることを誇りに思います。またお会いしましょう。

野球部ＯＢ会総会

野球部ＯＢ会総会は例年、夏の地方大会が終わった直後の８月の第一日曜日に行われており、今年度は８月７日所沢高校内での開催となりました。

所沢高校野球部は昨年度は三回戦に進出、今年度も春日部東を破って二回戦に進出しましたが、花咲徳栄に敗れています。

総会ではまず木村一男会長が「現役のみなさんがいい成績を収めないとＯＢ会もだんだん集まらなくなるといいますが、ＯＢ会が現役のみなさんをしっかり支えていくことでいい成績をあげられるようにしたい」などとあいさつしました。

議事では、昨年度の事業報告、今年度事業計画案、役員改選などについて審議し、いずれも原案どおり承認されました。このうち今年度の事業では、夏の大会前にアンダーシャツとＴシャツの贈呈、卒業記念品の贈呈、現役との親睦野球、広報活動などを行っていく予定です。また、役員の改選の結果は次のとおり。

（敬称略）

会　長＝木村一男

副会長＝石川　清、小澤秋仁、増田征貴

木村会長は「今年は節電対策で、企業が土、日に業務を行うところがあり、ＯＢも集まりにくかったですが、それでもいい試合ができました。現役に対してよく口を出すＯＢ会もありますが、所高ＯＢ会は縁の下から支える役に徹していきたいと考えています。」などと話していました。

サッカー部ＯＢ会総会・初蹴り会

サッカー部ＯＢ会は会員相互の理解と親睦を図るとともに、現役を支援し発展に寄与することを目的としています。平成20年のサッカー部創立40周年記念事業を契機に、ＯＢ会活性化に取り組み、積極的に活動しています。

８月７日午後所沢高校会議室にて今年度総会が開催されました。まず、田畑喜久男会長が「所沢高校サッカー部ＯＢ会が再出発してから三回目の総会になりますが、多くの方たちの尽力により大変いい運営がなされていると思います。なお、先の知事選では所沢高校の生徒さんが受付事務や啓発事務に参加してくれました。中にはサッカー部員もおり、大変感謝します。市長からお褒めの言葉をいただきました。」などとあいさつしました。今年度の事業としては総会のほか、初蹴り会、新年会、各大会での応援などを行っていくとしています。今年度の役員は次のとおり。

（敬称略）

会長＝田畑喜久男、

副会長＝神谷弘幸、仲　弘明、野口　進、黒須正明、田中利之

総会終了後は現役との交流会が行われました。

１月８日所沢高校グランドにて定例の「初蹴り会」が開催されました。

この日現役は午前中に、福島県立原町高校・相馬農業高校合同チームとの交流ゲームをこなし、午後から若いＯＢと対戦。女子はＯＢと対戦しました。

毎年成人の日の前日曜日に実施していますこの行事、新年の仕事や新年会等と重複して参加でない方からは、大変残念とのお便りも頂いています。中には、現役在籍の娘と対戦したＯＢもいました。

皆さんも、年に一回万障お繰り合わせの上ご参加下さい。　写真は、親善試合前のセレモニーの様子です。

脈々と受け継がれる所高魂 体育祭を通して何を学ぶか

生徒会係　教諭　佐伯　真一

所高の体育祭は十一月から始まります。生徒総会で議論された今年度の反省をもとに、次年度の体育祭に向けた検討が体育祭バックアップ委員会で行われます。本格的な体育祭に向けての準備は1学期中間考査をはさんで行われます。試験前は、計画や構想の段階、試験1週間前から最終日までは、体育祭は一切中断して勉強に集中、最終科目の試験終了と同時に、1週間の直前準備期間に入ります。実際の製作作業はこの期間に行われます。平成23年度は準備期間の天候に恵まれず、風雨の中での準備となりましたが、本番までには準備が整い、当日は最高の条件の中、準備の成果を出し切ることができました。

バックアップ委員会での検討や、体育祭実行委員会の運営は生徒が主体的に動いて行います。我々顧問は、それに対して助言をし、検討するうえでの視点を提示するなどして、側面から支援をしています。ひとつの行事を行うにはたくさんの方々、例えば材木や連合Tシャツの業者さん、グラウンドを使用する部活動などとの調整が必要ですが、これも生徒が行います。

体育祭も少しずつではありますが、変化しています。行事をよりよいものにするための試行錯誤は毎年いろいろな場面で行われています。以前と同じものを作り上げることを目標とするのではなく、絶えずよりよいものにしていこうとする姿勢こそ、大切にしてほしいと思います。

近年、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様、近隣の方々が体育祭に足を運んでくださっています。平成22年度は917名、平成23年度は963名の来場者がありました。地域の方々の来場が特に増えており所高への関心の高さが伺えます。

3年生が1・2年生にダンスを教えているところ

当日（騎馬戦）の様子

前日の製作作業の様子

校舎施設改修について

平成22年度、23年度にかけて、校舎施設改修工事が続きました。

【平成22年度】

●快適ハイスクール施設整備

☆2号館のトイレは一部屋を男女に区切って使用していたものを、一階西側男・東側女・二階西側女・東側男（三階、四階も同様）の一部屋にして、小便器・大便器の数を増やし、ゆとりのあるドライ式トイレに変身しました。センサー付き蛍光灯が備えられ、女子トイレには音姫がつきました。

☆屋上防水工事が実施されました。

☆部室二棟の外壁塗装、屋上防水、階段・手摺交換工事も行われました。

●3号館防音空調工事

冬季から春季休業中に実施されました。

●1号館エレベーター設置工事

春季休業中に実施されました。またエレベーター脇に生徒相談室が設置されました。

【平成23年度】

●1号館防音空調工事

夏季休業中に実施され、この工事で校舎内すべて冷暖房完備となりました。

●3号館全体・トイレ改修工事

2月から春季休業中にかけ実施予定です。教室・廊下階段の床がすべて張り替えられ、壁には杉羽目板の腰壁がつきます。トイレは便器が交換され、2号館と同じセンサー付き蛍光灯と交換します。ドライ式トイレとなり、女子トイレには音姫がつきます。

西武園ゆうえんちとのコラボ企画

～美術部・ハロウィンに合わせフェイスペイント～

10月下旬所沢高校美術部の生徒たちが「西武ゆうえんち」の依頼を受けて、来園した家族らを対象にフェイスペインティングを実施し、大好評でした。これは開かれた学校づくりの一環として、地域住民や企業団体、小中学校とのさまざまな活動を深める「所高ＫＩＺＵＮＡ活動」の一つです。西武園ゆうえんち側も「地域密着型の取り組みを行い、地域住民に貢献したい」と考えていたことから学校・遊園地双方の熱い思いが合致して今回の画期的な企画が実現しました。

「ハロウィン」に合わせて美術部生徒及び顧問が園内に出張。専用ブースを設けて来園したチビッ子の顔や腕に専用マーカーで楽しい絵を描いたもので、ハロウィン（かぼちゃ）だけでなくポケモンなど子ども達に大人気のキャラクターを生徒各々の感性で描き大変喜ばれました。

～化学部・科学実験教室～

8月と11月に化学部の生徒による出前講座「科学実験教室」も開催されました。多くの家族連れで賑わう中、プールサイドステージでの「メントス噴水」「液体窒素」による実験ショーや、「簡易高度計づくり」の体験講座が行われ、大盛況でした。参加した子どもたちは、お兄さん、お姉さんたちに科学の世界と実験の面白さを教えてもらい、大満足の様子でした。

化学部　県知事賞受賞

「アルミホイルと食塩水を使った燃料電池用水素発生装置」というテーマで第63回県科学教育振興展覧会中央展に出品し、見事最優秀賞に輝きました。

この装置はアルミホイルを食塩水につけて水素を発生させ、その水素を燃料電池に供給することで電気をつくるというものです。水素と酸素を反応させ、熱と電気をつくるのが燃料電池です。水素をできるだけ効率よく多く発生させることができれば結果的に熱も電気も比例して多く発生させることができると考え、実験を重ねました。アルミホイルを丸めたり、シワにしたり形状を考え、食塩水の濃度を変えたりするなど、さまざまな条件を試してみました。実験を考察する過程でつまずいたりすることもあったそうですが、顧問の先生の助言もあり、根気強く系統的な実験をおこなった結果、今回受賞した最も多く水素が発生する装置をつくることができました。しかも、この仕組みだと、水しか排出されないので環境にも優しいというところも、すばらしい点です。同作品はその後、「第55回日本学生科学賞」（全国展）の中央審査にも出品されました。

現在、化学部は部長の上門雄也君（2年）を中心に今回の実験装置研究の他、西武園遊園地での科学実験教室や小学校でのＫＩＺＵＮＡ活動、東京大学と連携してのサイエンスアカデミーなど、活発な活動をおこなっています。燃料電池の触媒の研究も意欲的に続けており、今後の活躍が期待されている部活動です。卒業生の皆様、是非応援してください。

しろくますたじお IN 映画甲子園

三年六組　松尾　豪

この度、僕達映像制作有志団体「しろくますたじお」は映画甲子園2011にて「ALL」「LOOP」「夜を駆ける」3作品全て特選に選ばれました。

環境規定作品「Oasis」は準優秀作品に選ばれました。その中でも「ALL」は、優秀脚本賞、優秀撮影賞、優秀男子演技賞（土屋裕太）を受賞しました。

映画甲子園とは、特定非営利活動法人学校マルチメディアネットワーク支援センターが主催する、高校生を対象とした映画の全国大会です。

「しろくますたじお」とは、僕達が1年生の時に所高祭で映像作品を発表するために結成された有志団体です。

中心メンバーは現在3年生の小波津厚志、坂田雄亮、鈴木翔太、土屋裕也、松尾豪、美尾涼平、山下諒也、山中翼、與儀晃大の9人です。

「しろくますたじお」は所沢高校卒業後も活動を続け、作品を作っていくつもりです。

僕達の作った映像作品をいくつか、インターネット動画サイト「YOU TUBE」で観ることができるようにしておきました。

「しろくますたじお」と検索すれば作品が出てくるはずです。そのうち全ての作品をアップするつもりです。是非ご覧いただき、ご感想をいただければうれしいです。

二〇一二年　三月　卒業します　どうぞよろしく

全員主役

平成24年3月卒業
石川　義朗

私は所高での三年間、物事を広い視野で見るように努め、多くの学校行事に関わろうと尽力してきました。所高の伝統ある行事に参加・行動し、自分たちの先輩の勇姿を見ているうちに、自分がこの行事の主役になりたいと感じるようになりました。

ですが、その考えは少々浅はかでした。所高において、主役は単に「長」を務めた人だけではないのです。深く関わっていた体育祭を例に出せば、企画書を考え、作成し、連合ごとにオブジェ、アーチ、衣装などを制作し本番を迎えるという一連の流れには、団長・チアリーダーだけが主役という場面は少なく、むしろ一人一人が主役になり活躍できる場面が随所にあります。

そして、何人も主役が入れ替われば、その楽しさも増します。体育祭は正に全学年全員が主役になり、楽しみを味わえる貴重で至極素晴らしい行事でした。

多くの行事の楽しさを追求し、所高をもっと良くしていきたいと感じ、私は生徒会副会長になりました。副会長は本当に貴重な役職でした。いわゆる縁の下の力持ち的な位置であり地味な役職です。その反面、比較的自由に行動することができました。自由に行動ができたのは、たくさんの人の協力があってこそであり、その協力により、この役職を１２０％の力で務めることができたのではないかと思います。

所高には、頭髪や服装が自由などといった校風があります。その根幹にある重要な、かつ守るべき伝統が、「物事を生徒自身で考え行動できる」というものだと思います。

生徒総会の場でも私が何度も繰り返して述べてきた、「自主性とは何か。どうあるべきか。みなさん再度考え直してみて下さい。」という言葉は願いでもあり、また警鐘でもあります。

所高で学ばせていただいたことを大いに発揮し、大学生活を充実したものにしたいと思います。

（生徒会副会長、サッカー部「フットサル」部長）
（立教大学　現代心理学部映像身体学科　進学）

新鮮な毎日

平成24年3月卒業
堀之内　祐香

所沢高校で過ごした三年間で、私は多くのことを経験し学ぶことができました。学校での生活は一日一日の内容が濃く、とても充実したものとなり、あっという間に時が過ぎていきました。

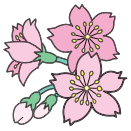
入学して、今まで経験したことの無かった部活動であるサッカー部にマネージャーとして入部しました。そのことによって日々新しいことの連続でした。自分ひとりで解決できない時は、同学年の人や先輩、先生方に手助けしていただいたりと、沢山の人に支えられていました。あとから入部してきた後輩たちも気の合うメンバーばかりで、本当に恵まれた環境の中で活動することができました。

また、私はサッカー部と同時に書道部にも所属しました。兼部することによって少し忙しくなることもありましたが、学生の本業である学業も疎かにしてはいけないと思い、私は日々の授業も大事にしてきました。家庭学習も大切ですが、私は先生方の熱意ある丁寧な授業のおかげで大学に入学できたと思っています。

所沢高校が掲げる「自主自立」というのは、自分で考え、責任を持ち行動するということですが、同時に周囲の人たちと協力することによって成長していくものだとも思います。実際、私も部活動や各行事を通して少しずつ成長できました。これから所沢高校で過ごしていく後輩のみなさんには、この伝統ある校風を誇りに思い、守っていって欲しいと思います。

今、この所沢高校で出会った友人、お世話になった担任、顧問ならびに諸先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。春からは大学生ですが、三年間で経験してきたことを活かして充実したキャンパスライフを送っていきたいと思っています。今まで本当にありがとうございました。

（サッカー部マネージャー）
（早稲田大学　人間科学部健康福祉科学科　進学）



在校生部活動の記録（主なもの）

陸上競技部
・関東大会出場　やり投　岩上隆太郎
・インターハイ出場　八種競技　額田　和真

サッカー部
・新人大会　西部地区32
・女子新人大会予選リーグ敗退

男子ソフトテニス部
新人戦県大会個人戦の部　団体戦の部出場

女子ソフトテニス部
・個人戦2年生全員県大会出場
・新人大会　県大会(団体)ベスト16でインドア大会出場

弓道部
・第52回所沢市青少年三道大会
団体　二位　初級の部　個人優勝

剣道部
・西部地区大会男子個人ベスト32
・第52回所沢青少年三道大会
個人2位、3位　敢闘賞1名

男子バドミントン部
・高校総体県大会出場　個人シングルス
・新人大会県大会出場
個人シングルス及びダブルス

女子バドミントン部
・高校総体県予選会出場　個人ダブルス
・新人大会西部地区予選　団体ベスト8
・西部支部新人大会　団体ベスト4

男子バスケットボール部
・新人大会　県大会出場

女子バスケットボール部
・平成23年度新人大会西部支部出場

男子バレーボール部
・学総体西部支部予選二回戦
・選手権大会一次予選　一回戦

女子バレーボール部
・高校総体県予選出場

新体操部
・西部支部高等学校新体操大会
(個人)　クラブ6位・リボン7位

卓球部
・西部地区予選男子団体　県大会出場
・西部地区秋季卓球選手権
男子　団体ベスト8　個人ベスト32

バトン部
・定期発表会
・埼玉県高等学校バトン大会出場
・埼玉県バトンフェスティバル出場

ダンス部
・校内及び久米納涼祭でのライブ
・宮城県立松島高校ダンス部と交流

化学部
（詳細は7頁）
・第63回埼玉県科学教育振興展覧会　埼玉県知事賞受賞
・第55回日本学生科学賞埼玉地区展覧会　読売新聞社賞受賞
・西武園遊園地科学実験ショー
・市内小学校科学実験教室

書道部及び書道選択者
・第35回学芸書道全国展　優秀団体賞（9年連続）
・第38回銀河書道作品展　文部科学大臣賞　3年　堀之内祐香

吹奏楽部
・埼玉県吹奏楽コンクール
Aの部　県大会　銅賞
・埼玉県アンサンブルコンテスト　県大会　クラリネット三重奏 銅賞

ギター部
・全日本ギターコンクール　合奏部門　銅賞

弦楽部
平成23年度全国高等学校総合文化祭に埼玉県5校合同弦楽オーケストラとして参加。

音楽部
・西部地区高等学校音楽祭出場

美術部
・平成23年度所沢市救急車適正利用PRポスター展　金賞
・第54回高校美術展奨励賞　2名

演劇部
・西部B地区春・秋大会参加

写真部
・第25回記念私が見つけた「埼玉の自然」フォトコンテスト入選

文芸部
・部誌　年4回発行
・文芸倶楽部（県内文芸部交流会）参加

2011年（平成23年）度入試　大学・短大合格数

平成23年4月1日現在

	大学名	合格数		
		現役	既卒	合計
国公立大学	茨城大	0	1	1
	香川大学	1	0	1
	金沢大	0	1	1
	埼玉大	4	1	5
	筑波大学	1	0	1
	東京海洋大	0	1	1
	防衛医科大学校	0	1	1
	埼玉県立大	1	0	1
	首都大東京	0	1	1
	高崎経大	1	0	1
合計		8	6	14

	大学名	合格数		
		現役	既卒	合計
私立大学	青山学院大	2	1	3
	亜細亜大	8	2	10
	跡見学園女子大	6	0	6
	桜美林大	3	0	3
	大妻女子大	3	0	3
	嘉悦大	2	0	2
	学習院大	9	2	11
	学習院女子大	1	0	1
	神奈川大	0	2	2
	北里大	2	0	2
	京都女子大	1	0	1
	共立女子大	4	0	4
	杏林大	4	0	4
	国立音大	1	2	3
	慶応大	1	0	1
	工学院大	2	1	3
	国学院大	0	2	2
	国士舘大	3	0	3
	駒沢女大	1	0	1
	駒澤大	12	7	19
	埼玉医科大	2	0	2
	埼玉工大	2	0	2
	産業能率大	1	0	1
	実践女子大	3	0	3
	芝浦工大	5	0	5
	十文字学園女大	2	0	2
	淑徳大	1	0	1
	城西大	3	0	3
	上智大	1	0	1
	尚美学園大	3	0	3
	昭和大	2	0	2
	女子栄養大	1	0	1
	女子美大	1	0	1
	白梅学園大	1	0	1
	白百合女子大	2	0	2
	駿河台大	1	0	1
	成蹊大	10	3	13
	成城大	5	3	8
	専修大	1	2	3
	大正大	8	0	8
	大東文化大	20	4	24
	高千穂大	3	2	5
	拓殖大	2	1	3

	大学名	合格数		
		現役	既卒	合計
私立大学	玉川大	2	0	2
	多摩美大	1	1	2
	中央大	13	5	18
	帝京大	15	4	19
	帝京科学大	3	0	3
	帝京平成大	2	0	2
	東海大	7	0	7
	東京家政大	6	1	7
	東京経大	13	4	17
	東京工科大		1	1
	東京国際大	6	1	7
	東京女子大	2	0	2
	東京造形大	1	0	1
	東京電機大	6	0	6
	東京農大	12	3	15
	東京福祉大	1	1	2
	東京薬大	1	0	1
	東京理大	4	3	7
	東邦大	3	0	3
	東洋大	43	10	53
	獨協大	13	2	15
	日本医療科学大学	1	0	1
	日本獣医生命大	2	0	2
	日本女子大	1	1	2
	日本大	20	14	34
	日本文化大	2	0	2
	日本薬大	3	0	3
	文化女子大学	4	0	4
	文教大	5	3	8
	文京学院大	8	0	8
	平成国際大	1	0	1
	法政大	17	3	20
	武蔵大	13	5	18
	武蔵野大	4	0	4
	武蔵野美大	6	0	6
	明治大	10	1	11
	明治学院大	2	1	3
	明治薬科大学	2	0	2
	明星大	3	2	5
	目白大	6	1	7
	立教大	17	2	19
	立正大	7	0	7
	早稲田大	6	2	8
合計		439	105	544

	短大名	合格数		
		現役	既卒	合計
短期大学	共立女短	2	0	2
	埼玉医大短	2	0	2
	埼玉女子短	1	0	1
	青山学院女短	5	0	5
	大妻女子大学短	1	0	1
	東京家政大短	1	0	1
	東京農大短	1	0	1
	白梅学園短	1	0	1
	立教女学院短	5	0	5
合計		19	0	19

2011年（平成23年度）同窓会役員

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
顧問	藤宮　顕夫	18	常任幹事	小杉　正司	32	常任幹事	大野由喜子	46
顧問	肥田埜　孝	21	常任幹事	島田　孝男	33	常任幹事	駒井　光明	50
相談役	肥沼　金治	30	常任幹事	秋谷　穣	36	常任幹事	桑原　浩	55
会長	当麻　実	36	常任幹事	八木　勝利	36	常任幹事	原田　久夫	54
副会長	木下　武文	37	常任幹事	上原　芳江	37	常任幹事	大石　健一	59
副会長	松本　明信	38	常任幹事	大河原　勝次	39	常任幹事	秋田　孝	62
副会長	岩岡　民枝	29	常任幹事	横山　勝津彦	39	常任幹事	村山　泰崇	H6
副会長	三上　恭央	61	常任幹事	加藤　幸造	40	校長	中田　貞夫	
会計	滝島　孝一郎	43	常任幹事	本橋　栄三	43	事務局	森元　伸一	
会計	石井　里子	37	常任幹事	古谷　真一	44	事務局	伊藤　美穂	
監事	森田　貢	32	常任幹事	岸　晴男	44	事務局	棚井　裕子	
監事	岡村　能成	47	常任幹事	富澤　行雄	44			
常任幹事	小沢　郁夫	29	常任幹事	川名　美代子	44			

2010年度（平成22年度）同窓会決算報告

1．収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	増減	摘要
(1)会費	4,224,000	3,804,000	420,000	入会金及び終身会費(12,000×317名)
(2)雑収入	50,000	8,293	41,707	預金利息、記念誌売上代、ご芳志
(3)繰越金	1,545,842	1,545,842	0	平成21年度より繰越し
計	5,819,842	5,358,135	461,707	

2．支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	増減	摘要	
(1)事業費	4,000,000	2,499,160	1,500,840	卒業記念品代(証書入れ)	107,190
				会報編集費・印刷費	749,670
				会報発送費	1,616,294
				同窓会簡易名簿出力費	26,006
(2)会議費	100,000	13,440	86,560	役員会・総会等茶菓代、謝礼　他	13,440
(3)事務費	400,000	117,439	282,561	郵券・葉書代・他郵送代	960
				消耗品・旅費・同窓会館電話料	116,479
(4)諸費	200,000	0	200,000		0
(5)合宿所整備費	300,000	160,091	139,909	同窓会館清掃費	154,597
				合宿所物干し竿	5,584
(6)予備費	819,842	0	819,842		0
計	5,819,842	2,790,130	3,029,712		

差引残高　（収入決算額 － 支出決算額）　5,358,135 － 2,790,130 = 2,568,005円　（次年度へ繰越）

3．積立金　2,000,000円（埼玉りそな銀行所沢支店）

上記の通り報告いたします。
２０１１年（平成２３年）　５月２８日
会長　当麻　実

以上監査の結果、適正に処理されていたことを報告いたします。
２０１１年（平成２３年）　５月１１日
監事　森田　貢　　監事　岡村　能成

2011年度（平成23年度）同窓会予算

1．収入の部　（単位：円　△印：減額）

科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1)会費	3,876,000	4,224,000	△348,000	入会金、終身会費(12,000×323名)
(2)雑収入	20,000	50,000	△30,000	預金利息、追加入会、会誌売上等
(3)繰越金	2,568,005	1,545,842	1,022,163	平成21年度より繰越し
計	6,464,005	5,819,842	644,163	

2．支出の部　（単位：円　△印：減額）

科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1)事業費	4,000,000	4,000,000	0	卒業記念品（証書入れ） 会報編集費・印刷費・会報発送費 入学祝い品（襟章）作成 ホームページ作成・維持管理
(2)会議費	100,000	100,000	0	役員会・総会等茶菓代、謝礼　他
(3)事務費	400,000	400,000	0	郵券・葉書代、他郵送代、消耗品・旅費・同窓会館電話料 備品・プリンタ消耗品
(4)諸費	200,000	200,000	0	慶弔費等
(5)合宿所整備費	300,000	300,000	0	合宿所で必要な備品等整備費 合宿所清掃費
(6)予備費	1,464,005	819,842	644,163	
計	6,464,005	5,819,842	644,163	

3．積立金　2,000,000円（埼玉りそな銀行所沢支店）

２０１１年度（平成２３年）　５月　２８日
埼玉県立所沢高等学校同窓会

お知らせ

所沢高校同窓会ホームページ

http://www.tokoko-dosokai.jp

○主な内容は　・歴史写真館　・校歌、応援歌　・同窓会報バックナンバー
・著名な同窓生　・会員交流のページ　・クラス会の連絡、報告等

◇会報バックナンバーは、次のＩＤ・パスワードを入力のうえ、開いて下さい。

ＩＤ：tokoko　パスワード：midorino

会員交流のホームページは、ホームページから個々に登録することで、使えるようになります。

ＨＰ開設の目的は、会員の皆様への情報提供ですが、それ以外にも、現役の所高生やこれから所高を受験しようと考えている中学生やその保護者の方への情報発信にも役立てば、と考えています。
どうぞ、ご協力をお願いいたします。

お願い
（クラス会等の幹事さんへ）
クラス会の開催予定や、楽しい報告がございましたら、ぜひお知らせ下さい。

同窓会総会開催のお知らせ

日時：平成24年５月12日(土)
午後２時

場所：同窓会館「希望の鐘」
多くの皆様の出席をお待ちしています。
なお、出席される方は、４月末日までに本校同窓会事務局へ電話連絡をお願いします。

役員の皆様へ
当日の午後１時より役員会を予定しています。
詳細は、別途ご案内いたします。
多数の役員の方の出席をお待ちしています。

- 『所沢高校百周年記念誌』、写真冊子『所沢高校百年の歩み』、校歌・応援歌・商業学校学生歌・女学校朝会歌を収録したＣＤをご希望の方は、所沢高校内の同窓会事務局までご連絡下さい。
- クラス会・同期会の幹事さんへ（お願い）
会を催された場合は同窓会事務局までご連絡下さい。
心温まる会の様子を記事として同窓会報に掲載させていただきたいと思います。
また、本校同窓会館「希望の鐘」で、クラス会等を行いたい場合も、事務局までどうぞ。
- 同窓会報で取り上げて欲しい話題等ありましたらご一報ください。
また、同窓会報への投稿も大歓迎です。（10月末日〆切）
- 住所変更等の場合は、ハガキなどの文書でご連絡下さい。その際、記入者欄は必ずご記入下さい。
未記入の場合はお受けできない場合があります。
なお、ハガキでの連絡で、個人情報を隠したい方は、お手数ですがハガキを封筒に入れご郵送ください。
- 同窓会名簿の取り扱いには特にご注意をお願いいたします。

母校にぜひおいでください！

平成二十四年度の行事から、同窓生の方々にもご来校いただける行事をご案内します。

- 体育祭　六月五日(火)　九時～
- 所高祭　九月八日(土)・九日(日)

ぜひ、ご家族・お友達をお誘いの上、お越しください。なお、恐れ入りますが、校内に駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用ください。

今年度から同窓会報誌の送付方法一部変更させていただきました

これまで、ご家族に複数人の同窓会会員がいらっしゃる場合にも、お一人ずつ会報誌を送付していましたが、今年度よりその場合は各世帯一通の送付にさせていただきました。従来どおりの送付をご希望の方は、お手数ですが、その旨本校事務局までご連絡ください。

所沢高等学校後援会　賛助会員加入のお願い

後援会事業は以下の３つの事業を通して、本校の教育の発展・振興に大きく役立っています。

１　施設・設備の拡充援助
２　教育活動への助成
３　各行事への助成

賛助会員は本会の趣旨に賛同いただける方で、「賛助会員の期間は原則として１年とし、翌年度の会費納入をもって更新する」（後援会会則第４条２項）ことになっています。

会費の納入については以下の様にお願い致します。

１　口数　１口　２、０００円
２　振り込み　郵便振り込みで、
口座番号　０１２０―６―５３７５４
加入者名　埼玉県立所沢高等学校
３　期間　平成24年３月末日
（４月中でも可）

編集後記

何気ない日常がどれほど大切なことか、人と人のつながりについて深く考えさせられる一年でした。会長のご挨拶にもありますが、震災当日は同窓会館「希望の鐘」のおかげで多くの生徒が救われました。現在、在校生は募金活動、サッカー部やダンス部のように被災地の高校との交流など様々な形で「ＫＩＺＵＮＡ」を深めています。
所沢高校卒業生はいまや二万一千人を超え、各方面で活躍中です。年に一回の発行ではありますが、この同窓会報が会員の皆様の絆を少しでも深めることができれば幸いです。発行に際しまして、原稿をお寄せくださいましたすべての方々に感謝申し上げます。

会報題字
駒井光明氏（昭和50年卒）
毎日展審査会員

印刷　有限会社須賀印刷
☎０４９（２２２）１９８９